

1. 授業のねらい・概要

マクロ経済学は、経済全体を巨視的にとらえ、経済主体の行動の結果を生産量、雇用量、総所得、総消費、総投資、物価などの変数に集計し、これらの集計量相互の関係を通じて経済の動きを分析する学問領域である。具体的な主題としては、GDPやGNI（GNP）の概念、総所得の決定、インフレとデフレ、失業、景気変動、経済成長、財政政策と金融政策、為替レートの変動とその影響などが挙げられる。

マクロ経済学は、ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』において創始されたとされるが、その後、ケインズの後継者たちであるケインジアン、これの批判者たるマネタリストおよび合理的期待学派、さらにはサブライサイド経済学派、ニューケインジアンなどによる学説が登場した。これらの学説では、経済体系や経済主体の行動に関する想定が異なり政策提言が鋭い対立を示してきた。一方、近年のマクロ経済政策の動向は強い関心を掻き立てるものである。金融緩和、財政出動・成長戦略の「3本の矢」を掲げて登場したアベノミクスは、「新3本の矢」としてGDP600兆円、合計特殊率1.8、介護離職ゼロを目指すとする政策展開が注目されている。また、最近では日銀が金融緩和を一段と推し進め、マイナス金利政策に踏み切った。本講義では、これらの動きも見据えながら、経済のものをさしたるGDPの概念の把握から始め、マクロ経済学の基礎理論を平易に解説する。

2. 授業の進め方

授業計画にしたがって、講義形式で行う。テキストは用いないが、講義資料を配付し、必要に応じて参考文献の関連箇所を指示する。また、時事的な話題を適宜取り上げ、解説した理論をもとに考察を試みる。

3. 授業計画

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 講義概要の紹介、マクロ経済学とは？ | 9. IS - LM 分析 |
| 2. GDP について | 10. 総需要と総供給：古典派とケインジアン |
| 3. 三面等価の原則、マクロバランス、名目と実質 | 11. 国際マクロ経済理論 |
| 4. 均衡総所得の決定 | 12. インフレと失業 |
| 5. 有効需要と乗数の理論 | 13. デフレと量的緩和政策 |
| 6. 貨幣の供給 | 14. 景気変動と経済成長 |
| 7. 貨幣の需要 | 15. 最近の学説から |
| 8. 金融政策と財政政策 | |

4. 到達目標

マクロ経済学の基本概念や考え方を文章により説明できること。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

授業項目に関連する内容について参考図書を読むこと(30分程度)

6. 成績評価の方法・基準

受講状況および学期末試験の結果を合わせて評価する。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。資料を配付しテキストの代わりとすることがある。

(参考文献)

伊藤元重『マクロ経済学』日本評論社

中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社

その他の参考文献は、適宜講義時間中に紹介する。

8. 受講上の留意事項

経済学基礎を履修していることが望ましい。

出席回数が一定以上に達しない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。